

第42回 全国トラックドライバー・コンテスト

学科競技

問題用紙

(制限時間：60分間)

注意事項

- ① 解答はすべて別紙の解答用紙（マークシート方式）に記入すること。
- ② 解答用紙（マークシート方式）は、鉛筆を使用して必要な箇所にマークし、誤ってマークした場合は、跡の残らないように消しゴムで消すこと。
- ③ 解答用紙に書かれている受験番号、氏名を確認すること。
受験番号は「『部門コード』－『ゼッケン番号（2桁（例：青森県＝02））』」となる。

部 門	部門コード
4 トン部門	B
11 トン部門	C
トレーラ部門	T
女性部門	W

例) トレーラ部門の青森県代表の選手の場合、受験番号は「T－02」となる。

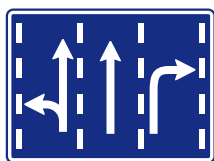
- ④ この問題用紙は試験開始の合図があるまで開かないこと。
- ⑤ 印刷の不鮮明なところや筆記用具等の件で用事があれば、静かに手を挙げて係員に聞くこと。ただし、問題の内容にふれるものには回答しない。
- ⑥ 問題用紙に、メモ、計算等を書き込んでも差し支えない。問題用紙は選手がそのまま持ち帰ること。
- ⑦ 試験開始45分経過後より退席してよいが、解答用紙は机上に伏せて、他の選手のじゃまにならないよう静かに退席すること。一度退席したら再度入席は出来ない。
- ⑧ 時間については、終了10分前と5分前に予告をする。

学 科 競 技


I 交通法規（40問）

解答用紙に正しいと思うものについては○の欄に、誤っていると思うものについては×の欄にマークを付けて下さい。

1. 横断歩道とその手前5m以内の場所は、駐車も停車も禁止されているが、横断歩道の先5m以内の場所は駐停車禁止場所ではない。
2. 運転免許の区分は、第1種免許、第2種免許、けん引免許に3区分されている。
3. 自動車の運転者は酒気を帯びて運転してはならないが、軽車両（自転車等）の場合はそのかぎりではなく、禁止の規定はない。
4. 交差点に先に入っていれば、対向直進車や左折車より優先して右折することができる。



5. この標識は指定方向外進行禁止の標識である。
6. トンネル内では車両通行帯の有無に関係なく、追越しが禁止されている。
7. 安全地帯のそばを通る場合、歩行者がいなければ徐行する必要は無い。
8. 道路標識とは、道路の交通に関し、規制又は指示を表示する標示板をいう。
9. 歩行者用道路を警察署長の許可を受けて通行する場合は、歩行者に注意して徐行しなければならないが、歩行者が見当たらない場合はその必要はない。
10. 信号機が青色の灯火のときに交差点を通行しようとしたところ、警察官が止まれの手信号をしたので、警察官の手信号に従い停止した。

11. 横断歩道（信号機による交通整理は行われていない）に近づいたが、建物の陰に歩行者がいるかもしれないと考え、直前で停止できるような速度で進行した。
12. 本籍、住所、氏名など、免許証の記載事項に変更があった場合は、次の免許更新のときに住所地の公安委員会に届けなければならない。
13. 中型免許を受けている者は、中型自動車、普通自動車、小型特殊自動車、原動機付自転車を運転することができる。
14. 自動車運転中に、初心運転者が初心者マークを付けた普通車を運転しているときは、いかなる場合でも側方に幅寄せをしたり、追い越しをしてはならない。
15. 故障車2台をロープでけん引する場合、けん引する自動車の前端からけん引される2台目の車両の後端までの長さが30mを超えてはならない。
16. 普通貨物自動車を運転中、同一方向に二つの車両通行帯が設けられた道路においては、道路の左側端から数えて1番目の車両通行帯を通行しなければならない。
17. 貨物自動車に貨物を積載しているものにあつては、当該貨物を看守するため必要な最小限度の人員をその荷台に乗車させることができる。
18.  この標識の設置されている道路は、大型貨物自動車と特定中型貨物自動車、大型特殊自動車は通行止めであるが、車両総重量8t未満、最大積載量5t未満の貨物自動車は通行できる。
19. 5分以内の荷物の積卸しは駐車には当たらないので、横断歩道上で車を止め、荷卸しをした。
20. 見通しの良い勾配の急な下り坂を40キロメートル毎時で走行した。
21. 夜間とは、午後7時から午前6時までのことである。

22. 荷物が分割できないため、積載物の重量や大きさ、積み方が規定の制限をこえる場合、目的地的の警察署長が車両構造、道路、交通の状況により支障がないと認めて許可したときには、指定された場所に積載して車両を運転することができる。
23. 貨物の積載方法は、車の前後左右に十分の一まではみ出しても出発地警察署長の許可なく通行できる。
24. 黄色の灯火の点滅信号は、歩行者や車は他の交通に注意して進行することができる。
25. 自動車は高速自動車国道の本線車道において、横断し、転回し、又は後退してはならない。
26. 道路標識等により横断、転回が禁止されている道路でも、他の交通に迷惑をかけなければ横断、転回をしてもよい。
27. 緊急自動車が接近してきたので、車両通行帯の黄色の線をこえて左に寄り、進路をゆずった。
28. 高速自動車国道の本線車道（政令で定めるものを除く。）においては、道路標識等により自動車の最低速度が指定されている区間にあつてはその最低速度に、その他の区間にあつては政令で定める最低速度に達しない速度で進行してはならない。
29. 路側帯とは、歩行者の通行の用に供するために縁石線、又はさくその他これに類する工作物によって区画された道路の部分をいう。
30. 車両の運転者は、合図を必要とする行為が終わったときは、その合図をやめなければならない。また、それらの行為をしないにもかかわらず、それらの規定の合図をしてはならない。
31. 道路の道幅が狭く車両の右側の道路上に3.5 m以上の余地がとれない道路であったが、運転者が車両を離れない状態で駐車し貨物の積卸しを行なった。
32. 道路交通法の目的は、道路における危険を防止し、交通の安全と円滑を図ることにあり、道路の交通に起因する障害の防止を図ることまでは目的とされていない。

33. 踏切を通過しようとするときは、踏切の直前（停止線があるときは、その直前）で一時停止をしなければならないが、踏切に信号がありその表示する信号に従うときは、踏切の直前で停止しないで通過することができる。
34. 歩道や路側帯がない道路で車両を停める場合は道路の左端に沿うが、路側帯だけある場合もその幅に関係なく車道の左端に沿って停車させれば良い。
35. トラックを運転中、積載方法の不備により貨物が落下しそれが原因で続発事故が発生した場合は、運転者の責任が問われる。
36. 車の故障による継続的な停止は、やむを得ないので駐車とはならない。
37. 右折をしようとするときは、その30 m手前から合図を行うが、転回をするときは、その行為をする3秒前に合図を行う。
38. 徐行とはおおむね20キロメートル毎時以下の速度を指す。
39. 前方の交通が混雑しているため、このまま進むと横断歩道上で動きが取れなくなると判断し、横断歩道を空けて手前で停止した。
40. 免許証の更新を受けず免許が失効した日から起算して6カ月以内なら、再取得に際して定められた検査及び講習を受ければ、運転免許試験のうち技能試験と学科試験が免除される。

学 科 競 技

Ⅱ 構造機能（20問）

解答用紙に正しいと思うものについては○の欄に、誤っていると思うものについては×の欄にマークを付けて下さい。

41. タイヤの空気圧が低いとタイヤ寿命が短くなり、燃費も悪くなる。
42. 貨物の運送の用に供する普通自動車であって、車両総重量が8トン以上のものの原動機には、自動車が100キロメートル毎時を超えて走行しないよう燃料の供給を調整し、かつ、自動車の速度の制御を円滑に行うことができるものとして告示で定める基準に適合する速度抑制装置を備えなければならない。
43. タイヤの摩耗限度（溝の深さ）は、道路運送車両の保安基準により、事業用トラックは1.0ミリメートル以上と規定されている。
44. 車幅灯の灯光の色は、赤色であること。ただし、方向指示器、非常点滅表示灯又は側方灯と構造上一体となっているもの又は兼用のものにあつては、橙色であってもよい。
45. 自動車の使用者は、自動車検査証の記載事項について変更があつたときは、その事由があつた日から30日以内に、当該事項の変更について、国土交通大臣が行う自動車検査証の記入を受けなければならない。
46. 自動車に備えなければならない非常信号用具は、夜間200メートルの距離から確認できる赤色の灯光を発するものでなければならない。
47. 停止表示器材は、夜間200メートルの距離から走行用前照灯で照射した場合にその反射光を照射位置から確認できるものでなければならない。
48. エア・クリーナが目詰まりすると燃費が悪くなり、黒煙の量が増加する。
49. タイヤの転がり抵抗は、バイアスタイヤよりもラジアルタイヤのほうが大きい。

50. 道路運送車両法による自動車の種別は、普通自動車、小型自動車、軽自動車、大型特殊自動車及び小型特殊自動車である。
51. 貨物の運送の用に供する自動車の車体の後面には、車両重量を表示しなければならない。
52. 自動車の最小回転半径は、最外側のわだちについて12メートル以下でなければならない。
53. 車両制限令では、車両の高さの最高限度を、道路管理者が道路の構造の保全及び交通の危険の防止上支障がないと認めて指定した道路を通行する車両にあつては4.1メートル、その他の道路を通行する車両にあつては3.8メートルと定めている。
54. 事業用自動車の定期点検整備は、国土交通省令で定める技術上の基準により1月ごとに実施しなければならない。
55. 事業用自動車のタイヤの溝の深さが十分であることに関する日常点検は、当該自動車の走行距離、運行時の状態等から判断した適切な時期に行わなければならない。
56. 日常点検の結果に基づく運行可否の決定は、運行管理者が行わなければならない。
57. 貨物の運送の用に供する普通自動車であつて、車両総重量が8トン以上又は最大積載量が5トン以上のものには、運行記録計を備えなければならない。
58. 貨物の運送の用に供する普通自動車であつて、車両総重量が8トン以上のものの後面には、後部反射器を備えるほか、大型後部反射器を備えなければならない。
59. 自動車の前面ガラス及び側面ガラス（告示で定める部分を除く。）は、フィルムが貼り付けられた場合、当該フィルムが貼り付けられた状態において、透明であり、かつ、運転者が交通状態を確認するために必要な視野の範囲に係る部分における可視光線の透過率が50%以上のものでなければならない。
60. 自動車の軸重は20トンを超えてはならない。

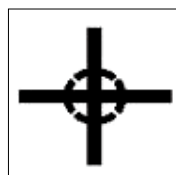
学 科 競 技

Ⅲ 運転常識（30問）

解答用紙に正しいと思うものについては○の欄に、誤っていると思うものについては×の欄にマークを付けて下さい。

61. 自動車運転者の1日の拘束時間は、13時間を超えないものとし、延長しても、最大拘束時間は16時間とする。この場合、1日の拘束時間が15時間を超える回数は、1週間のうち2回以内とする。
62. 60キロメートル毎時で車がコンクリートの壁に衝突した場合、約7メートルの高さから落下したときと同じ衝撃力を受ける。
63. 事業用貨物自動車の運転者は、疾病、疲労等で安全な運転ができないおそれがあるときは、その旨を貨物自動車運送事業者に申し出なければならない。

64. 右の指示マークは「重心位置」を示している。



65. カーブの半径が同じであればカーブで働く遠心力は、スピードが速いほど大きくなる。
66. 自動車が夜間、道路上に駐車する場合、同じ場所に引き続き6時間以上駐車してはならない。
67. 高速走行中にハイドロプレーニング現象が発生したときは、ただちにブレーキを踏み込んで速度を落とすのがよい。
68. 高速道路では路面が乾燥していて、タイヤが新しい場合、車間距離は、スピードメーターの読みの値と同じ数値以上（例えば、80キロメートル毎時の場合は80メートル以上）が必要とされている。
69. 平成21年の交通事故による死者数は5,000人を下回った。

70. 事業用貨物自動車の運転者は、携行している運行指示書の記載内容に変更が生じた場合は、新たな運行指示書の交付を受けなければならない。
71. 睡眠時無呼吸症候群をそのまま放置すると、睡眠時無呼吸のために血液が固まりやすくなり、狭心症、心筋梗塞、脳卒中など重大な合併症を引き起こすおそれがある。
72. 事業用貨物自動車の運転者は、乗務を終了して他の運転者と交替するときは、交替する運転者に対して当該乗務に係る事業用自動車、道路及び運行の状況について通告しなければならない。
73. 走行中に大地震が発生し、やむを得ず車両を置いて避難するときは、道路の左側に寄せて駐車し、エンジンを止め、エンジンキーは付けたままとし、窓を閉め、ドアはロックしないこと。
74. 下り坂では、低速のギアを用いエンジnbrakeを活用して走行するのがよい。
75. 自動車運転者の拘束時間とは、労働時間と休憩時間の合計時間をいうが、仮眠時間は拘束時間には含まれない。
76. 自動車運転者の1か月の拘束時間は、労使協定を締結した場合を除き、293時間以内でなければならない。
77. 自動車損害賠償責任保険による死亡した者への支払い限度額は、5千万円である。
78. 薄暮時には事故が多く発生するので、早めにライトを点灯し、自車の存在を知らせるとよい。
79. 大型トラックは乗用車に比べて運転席の位置が高く、見下ろす形になり、車間距離が実際よりも長く感じられるため、車間距離が短くなりやすいので注意する。
80. 次の運行計画は自動車運転者の連続運転時間の中断方法に適合している。

運転時間	休憩時間	運転時間	休憩時間	運転時間
1時間10分	10分	2時間50分	20分	1時間10分

81. 運輸部門から排出される二酸化炭素の6割をトラックが占めている。
82. 自動車運転者の1日の運転時間は、2日を平均して10時間以内でなければならない。
83. 国土交通大臣が認定する適性診断を受診しなければならない高齢運転者とは、60歳以上の者をいう。
84. タイヤには、進行方向を維持し、又は転換する機能があり、かじ取り車輪のタイヤ空気圧が左右均等でない場合には、空気圧が高い方にハンドルを取られる。
85. 走行中にタイヤがパンクしたときは、ハンドルをしっかりと握り、ブレーキを強く踏んで停止する。
86. 自動車運転者には、勤務終了後に継続した6時間以上の休息期間を与えなければならない。
87. 運転者が危険を感じてブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでの間に車が走る距離を「空走距離」という。
88. 事業用貨物自動車の運転者は、酒気を帯びた状態にあるときは、その旨を事業者に申し出なければならない。
89. 動いているものを見るときや、動きながら見るときの視力を「動体視力」というが、動体視力は静止視力よりもかなり低下する。
90. 輸送の安全の確保に関する取組が優良と認められる営業所においては、乗務後の点呼は省略することができる。

第 42 回 全国トラックドライバー・コンテスト
学科競技解答

(社)全日本トラック協会

問	○	×
1		×
2		×
3		×
4		×
5		×
6		×
7	○	
8	○	
9		×
10	○	
11	○	
12		×
13	○	
14		×
15		×
16	○	
17	○	
18	○	

問	○	×
19		×
20		×
21		×
22		×
23		×
24	○	
25	○	
26		×
27	○	
28	○	
29		×
30	○	
31	○	
32		×
33	○	
34		×
35	○	
36		×

問	○	×
37		×
38		×
39	○	
40	○	
41	○	
42		×
43		×
44		×
45		×
46	○	
47	○	
48	○	
49		×
50	○	
51		×
52	○	
53	○	
54		×

問	○	×
55	○	
56		×
57	○	
58		×
59		×
60		×
61	○	
62		×
63	○	
64	○	
65	○	
66		×
67		×
68	○	
69	○	
70		×
71	○	
72	○	

問	○	×
73	○	
74	○	
75		×
76	○	
77		×
78	○	
79	○	
80	○	
81		×
82		×
83		×
84		×
85		×
86		×
87	○	
88	○	
89	○	
90		×